



交流のない所に 煙は立たない

自分の町が語れない

私が地域づくりを意識したのは、もう40年も前の出来事です。私は地元青年団に入り、仲間とともに青年団活動にうつつを抜かしてました。当時田舎では青年団と婦人会が二大勢力を競い、村祭りや盆踊りなど様々な地域活動を請け負い、女性や若者たちが輝いて生きていた時代でした。

愛媛県青年団連合会の会長を務めていた昭和46年、県内の青年を引率して東京で開かれた青年問題研究会に参加しました。全国から集まった若者は胸に「愛媛県双海町・若松進一」という風に出身地と名前を書いた名札を付けていました。しかし夜なべ談義になって自己紹介をするものの、「愛媛」を「愛知」と、「松

山」を「東松山」と散々間違われ、「道後温泉」でやつと説明ができたのです。でも私の町は「道後温泉から西へ25キロ」瀬戸内海に面した」と、他所の街などを五つも枕詞で並べなければ説明できず、結局「あなたの町は電気がついていないのか？」と馬鹿にされ散々恥をかきました。一緒に行った大洲市の青年団長は「おはなはんで有名な大洲から来ました」と紹介し、テレビの効果にあやかりました。が、内子町の青年団長は「おはなはんで有名な大洲の隣の内子から来ました」と紹介していました。

あれから40年近くが過ぎましたが、「二周遅れのトップランナー」ともいえるように、内子町は町並み保存や同町出身の作家大江健三郎さんがノーベル文学賞を受賞するなど、むしろ大洲を陰に隠すほどすっかり有名になって、「おはなはん」を知らない世代が主流になったこの頃では、「おはなはんって何処のばあさんですか？」なんて笑い話になります。

きつかけはよそ者の一言と 馬鹿者の行動

そんな苦い経験もあつて私は随分長い間、自分の町に自信が持てず「何もない」と嘆いていました。しかし「あるきつかけ」

け」で全国何処にでもありながら、「落ちる・沈む・没する」のマイナスイメージから見向きもされなかった夕日の存在に気付いてからは、夕日を地域資源に地域づくりを始め、「日本一夕日の美しい町」を目指して孤軍奮闘した結果、20世紀の最後頃ではありましたが全国の人々に認知されるような町にまでなり、今では年間55万人の人が訪れるようになりました。「あるきつかけ」、それは突然訪れた



JR下灘駅からの「しずむ夕日が立ちどまる」光景

今春“恋人の聖地”に認定された
「ふたみシーサイド公園／恋人岬」



「よそ者」によってもたらされました。間違つて降り立ったJR下灘駅のプラットホームから偶然見た夕日が飛びきり美しいことに感動し、そのことを私に伝えました。人間にも地域にも自分では気付かない潜在能力があるものです。自分も地域も夕日などというありふれた資源ゆえにその存在すら気付いていなかったのです。「よそ者」は「馬鹿者」である私の潜在夕日を顕在化させ、「夕やけコンサート」という文化と交流のイベントに仕組んで実践し、始める、高める、続ける努力をしてきました。何もないと思われた田舎の小さな町が輝き始めたのです。

輝き始めるのも、輝きを高めるのも、ましてや輝き続けるのも容易なことではありませんが、「交流」は輝きに必要不可欠な命を次々と芽生えさせてくれました。交流拠点のなかった双海町に「シーサイド公園」や「ふれあい公園」などのソフトから生まれたハードが次々整備さ

れ、経済活動を志す漁協女性部など地域の人たちが様々な地域づくり活動を活発に展開し始めました。地域の活性化を目指して整備されたハードは都市と田舎の交流を生み、経済が循環し始めるとリーダーたちはよりクオリティ性の高い目標を掲げるため、県内外の個人や団体と盛んに交流し、研究や感化によって大きな成果を得るようになったのです。

交流による人づくり

地域づくりは人の良し悪しによって大きく左右されますが、私がそうであったように外との交流による異文化ギャップに気付くことが重要です。建国200年のアメリカで見た世界地図の真ん中に日本のない世界地図や、言葉が通じずコミュニケーションが取れないもどかさ、宮城県気仙沼の漁師が山に木を植える発想、過疎ながらここは地球のど真ん中と頑張る人など、日頃気付かぬ何気ないことが思わぬ発想を生むし心が育つのです。人づくりの基本は交流から始まりますが、交流の場と機会を制度化し10年で100粒の種を育てる「人づくり10年計画」は大きな成果を得ました。今日本の悲劇は「金がない」ことを理由に人づくりへの投資を止めようとしていることです。

愛媛へおいでよ

今年の秋、愛媛県で地域づくり団体全国研修交流会が開かれます。私も及ばずながら実行委員の一人として全国の関係者を愛媛の地に迎えて交流するべく、全国の仲間が愛媛という地に何を求めて訪れるのかを正しく見極めながら準備を進めています。

四国は八十八カ所遍路の国ゆえ温かいお接待の心でもてなします。愛媛は豊かな自然と食文化があるゆえ目と心を奪うような感動を与えます。南予を中心とした地域は地域づくり活動が活発なゆえ交流によってハラハラ・ドキドキ・ジーンとするような人間力に出会えます。愛媛へおいでよ。待っています。

おはなはん 知ってる人は もういない
 賞味期限が 切れたか俺も
 外に出て 初めて知った 無知なるを
 その後のレベル ラベルに変わる
 自己紹介 自分の町を 語るのに
 枕詞に 他所町語る
 おだてられ その気になって 委員長
 就任したが 不燃物では
 (若松進一笑売噺より)